

神崎修道院

昨年、広報委員会からの提案を受け、神崎修道院では、教皇様の回勅「ラウダート・シ」を丁寧に読み、学びあうことを目標に、よりシンプルなライフスタイルを目指し、水、電気、食品等の見直しを始め、自分たちに何ができるのかを考えました。

フランシスコ教皇様は、回勅「ラウダート・シ」19で、「わたしたちのねらいは、むしろ痛みをもって気づくこと、世界に起きていることを、あえて自分自身の個人的な苦しみにすること、そして一人ひとりがそれについてなしうることを見つけ出すこと」と述べられています。

2021年1月からこれまで、

- ① 節電節水に努め、給湯器も使わない時は、スイッチを切るように心がけています。
- ② 洗剤、石鹼も無駄のないように使っています。
- ③ ペーパーも裏紙を、メモ用紙やファクス用紙に使用しています。
- ④ 衣類等の古くなったものは、油拭きに利用しています。
- ⑤ ペットボトル、ダンボール、缶、紙類は分類してリサイクルに回すようにしています。
- ⑥ お店が遠いため、できるだけ野菜は畑で作り育てています。必要な時に使えるし、沢山できた時は、おすそ分けができます。
- ⑦ 野菜や果物の皮はコンポストで肥料にするように試みたのですがうまくいかず、今は休んでいます。ボカシを使ってやってみたいと思っています。
- ⑧ 買い物に行くときには、マイバックを持参しています。
- ⑨ 車の使用には、用事をまとめて、ガソリンを無駄に使わないように気を付けています。
- ⑩ 海の幸、山の幸をいただいた時は、感謝して食事作りに活用したり、分かち合ったりしています。
- ⑪ 夏場は西日がひどいため、各居室に日よけを取り付けています。
- ⑫ 年2回の地域の清掃活動に参加し、道路の草取りや清掃を行っています。



以上の事柄を意識し心がけるだけでも、自分自身の行動が変わったように思います。

2015年9月に国連サミットで採択され、2030年までの15年間で達成しようと掲げられたSDGsは、17の目標、169のターゲット、232の指標が策定されました。

日々、新聞やテレビを通して、海岸への漂着ごみを集める環境活動家や抗議行動をおこす若者、大手企業を中心に広がっている海洋ごみの再資源化と再生エネルギー化への動き、レジ袋の有料化、SDGs的な生活を取り入れ、大豆ミートで作る料理の紹介など知ることができました。また一方では、困窮者支援に力を注ぐ人や炊き出しの協力などの記事を読み、私たちの小さな努力が社会を変える力となることに共感し、これからもエコ実践を行動に移していきたいと思っています。